

大規模停電時、給電を支援する 電気自動車と避難所のマッチングシステムを開発

LINE 公式アカウントを通じて、生活者保有の電気自動車と避難所のニーズをつなぐ

AI 防災協議会(理事長:臼田裕一郎)は、神戸市とともに、大規模停電時の給電支援のために、一般生活者が保有する電気自動車(EV)と避難所とのマッチングを、LINE 公式アカウントを通じて実現する「給電サポーターマッチングシステム」を開発したことをお知らせいたします。



「給電サポーターマッチングシステム」の
LINE 公式アカウント画面



「給電サポーターマッチングシステム」の
避難所向け画面

地震など大規模災害により広範囲の停電が発生した場合、公的機関からの情報発信や、家族・友人・知人間の連絡を受けるための携帯電話・スマートフォンもライフラインの一つであり、個々の端末の電源維持が課題となります。そこで、大量の電気を蓄えることのできるEVに着目し、大手自動車事業者らと自治体が、EVの外部給電機能を災害時に活用しています。

このような取り組みを広域に運用するため、AI 防災協議会は、一般生活者が保有するEVを貸し出していただき、避難所と需給をマッチングする「給電サポーターマッチングシステム」を開発しました。各自治体が運用するLINE 公式アカウントを通じて、EVを保有する一般生活者が近隣の避難所のニーズを確認し、貸し出しを申請することができます。

また、本システムに、災害時にも継続的に発電できる地域の施設を掛け合わせることで、EVの電池がなくなったら施設へ移動して充電し、避難所等へ継続的に電気供給可能な「災害時給電サイクル」を実現します。

本システムは、AI 防災協議会が開発・社会実装を推進した、国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援する防災チャットボット「SOCDA」※の追加機能となります。今後本システムは、「SOCDA」を通じて自治体等災害対応機関に対して提供し、大規模災害時に向けた備えとして、社会実装を進めてまいります。

なお、2021年12月5日、神戸市が開催する神戸市総合防災訓練において、本システムを初めて活用いただきます。

■システム概要

給電サポーターマッチングシステムとは、災害時に停電エリアの避難所等から動く電源となる外部給電車両の派遣要請ができ、その要請を防災チャットボット『SOCDA』が自動整理し、給電車両の所有者(防災協定締結事業者等)にプッシュ通知することで、外部給電車両の需要と供給を自動的にマッチングさせる仕組みとなります。

<参考>

※SOCDA(ソクダ):「対話型災害情報流通基盤」

SOCial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

国立研究開発法人防災科学技術研究所(NIED)、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)、株式会社ウエザーニューズが、LINE 株式会社の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマI「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者:NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ2「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。

【本件に関するお問合せ先】

AI 防災協議会

E-mail : info@caidr.jp

HP : <https://caidr.jp/>